

15:14 私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。

15:15 ただ私が所々、かなり大胆に書いたのは、あなたがたにもう一度思い起こしてもらったためでした。

15:16 それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。

15:17 それで、神に仕えることに関して、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っているのです。

15:18 私は、キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行ないにより、

15:19 また、しるしと不思議をなす力により、さらにまた、御霊の力によって、それを成し遂げてくださいました。その結果、私はエルサレムから始めて、ずっと回ってイルリコに至るまで、キリストの福音をくまなく伝えました。

15:20 このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。

15:21 それは、こう書いてあるとおりです。
「彼のことを伝えられなかった人々が見るよ

うになり、聞いたことのなかった人々が悟るようになる。」

パウロはローマの教会のクリスチャンたちと、自分自身の使命を分かち合うことによって、彼らを主の働きへと、励まそうとしているようです。それはパウロの確信、「あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができる」という思いから来ています。

人を励ますときには、神様から与えられた将来像が力になります。ビジョンによって励まし合ひましょう。

パウロ自身のビジョンも、主から与えられたものであり、それゆえに彼は確信を持って進んでいきました。またそれは「キリスト・イエスにあって」の「誇り」でもありました。

私たちも主イエスに従うことこそが誇りです。この世の基準で勝ち組のように見られても、主に従っていなければ、その人は神の目から見ればみじめなものであり、そのみじめさはやがて現実になって現れてきます。

本当の誇りを手に入れましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

